



チャレンジフェスタを大成功のうちに終え、実行委員、出店者、イベント参加者に来場者も交えて「ハイ、チーズ」



浅井東兵衛 一関市長

「自信を持って思い切りやってみる。その経験を地域づくりにつなげてほしい」

す。去年のフェスタではそういうのがあったので。
市長 自分たちでできればなお楽しいね。それもあるかもしれないなあ。
菅原 それから、去年のチャレンジフェスタでは話し合いの回数が多かったのですが、今回は少し足りなかったと思います。
市長 もっと話し合っって意思の統一を図るべきでしたか。学校も離れていから集まるのは大変なんだよね。
菅原 次回はもっと高校生を集めて、さらに大きいイベントにできればいいなと思います。
市長 みんなで仲間を誘い合っって、もつとにぎやかにやれるといいですね。
参加してみて、今までの自分が変わった、あるいは何か新しい夢が開けたとかはありますか？

フェスタの経験を通じ成長を実感

菅原 今まであまり学校行事には積極的に参加していなかったんですけど、フェスタでいろいろな人と接する機会を得たことが楽しかったんです。
市長 何か今までの自分に無いものを得ましたか？
菅原 人と接する行事に参加する意欲が今までは少なかったのですが、そういう意欲が持てるようになりました。
和賀 実行委員長と言われた時に「できるかな」と思いました。でも、みんなが支えてくれたから最後までやることができましたと思っっています。



大東高等学校2年 佐藤和泉さん

「その場限りでない、その後も友達の関係でいられるような交流の機会を」

市長 実行委員長になり、自分が責任を持つてやらないといけない。これは素晴らしい体験だったね。そのことで自分に今までのないものを何か発見できた？
和賀 積極的に発言できるようになっってきました。
市長 やればやれると思っった、それは大きなプラスだよ。
佐藤裕 今回一関工業からは一人での参加だったので、忙しすぎて楽しむ余裕がなかったです。ほとんど本部で音響の仕事をしていましたけど、みんなの姿を見ていて、楽しそうに仕事しているなあと思っました。
市長 一人で参加したのはえらいじゃない。どうだった。どうしようかなあと思っましたか？
佐藤裕 不安が大きかったですが、やっってみたら思っほど不安なことはないかなっただす。
市長 それは良かった。一つ壁を乗り越えましたね。一人だと引っ込み思案になっってしまうことも、やっってみれば結構やれるという。



一関工業高等学校2年 佐藤裕太郎君

「一関市自体に明るい印象が与えられる催し物があれば良いと思います」

佐藤和 どこがというふうにはよくわからないですが、自分の何が少し成長できたのではと思っました。
市長 いずれこれは学校と違っって実社会の一つになるわけだね。またみんな学生だから本当の実社会ではないけれど、体験としていろいろ勉強になっったと思っます。学校で習っていることと比べてどうでしたか？
佐藤和 実践で、今までの授業と重なる部分があったので、自分のためにもなっったし、今後の授業にも役に立つと思っました。
菊池 私の担当では子どもと接することが多くて、子どもと話したり、笑顔を見られたのはとても楽しく、こちらから素直に笑えるようになりました。
和賀 本部で何かあっった時のために待機してていて、こう大変だったけれど、いろいろ手助けすることもできまし良かったです。
市長 学校で習っっているものとも違う意義がいつぱいあったっていうことだね。それが一つの大きな点です。学校では基礎を習っますが、ああいう



千厩高等学校2年 菅原美郷君

「もっと高校生を集め、さらに大きいイベントにできたらいいなと思っます」

所では応用編なので、その時に応じてパツと処理しなければなりませんからね。
さて、それでは若い皆さんに、これからのまちづくりについて、考えを聞かせてください。

交流の場により良いまちづくり

佐藤和 交流できる場が今の時点で少ないので、それを若者でどう変えていくのが今後の一関市の課題だと思っます。私たちも積極的に協力していきたい、一関のまちを明るくしていきたいと思っます。
菊池 今、大人と子どものかかわりが少なくなっっているし、交流の場も限られていると思っるので、それを自分たちで変えていきたいと思っます。
菅原 交流をやらないと良いまちならないので、いろいろなイベントなどを増やしていくことで、若者たちが住みやすいまちになっっていくのではと思っます。
和賀 やはり交流する場が少ないと

思っるので、もっとな増やせばいろいろな人との交流が深まると思っます。
佐藤裕 交流の場を設けることに加えて、一関市自体に対し明るい印象を他の県や市の人たちに与えられるような催し物があれば良いと思っます。
市長 交流の場が少ないというのは確かだね。私も、これからは交流人口をどんどん増やしていくことが必要と思っ取り組んでいくところですよ。
チャレンジフェスタも立派な交流をつくっただよね。ただ、遊ぶところでの交流もあるだろうし、いろいろあるよね。交流というのはどういう内容を皆さんが目指しているのかな。
菅原 高校生同士とか大人とか子どもと遊べるような交流です。
市長 地域の人たち同士のこと？
菅原 地域の人たち同士でもですし、他県の人たちとも交流できたら良いと思っます。
和賀 年代に関係なく、主催する人も来る人も楽しめるようなものがあったら良いと思っます。
佐藤裕 世代に関係なく楽しめるよ

うなものがないです。
佐藤和 交流した時にその場限りの付き合いとなるのではなく、その後少しでも友達の関係でいられるような交流です。
菊池 必ずその場に来た人全員と話すことができる交流。そうすれば、その場に自分の知らない人もいなくなるし、また会っった時もしゃべることができまっす。来た人全員と友達になれるような交流です。
菅原 限られた個人個人でなく、いきなり知らない人と会っただとしても話したりできるような、人と人との交流がしたいです。
市長 それには自分から積極的にどんどんと話しかけていく、来るのを待つているのではなく、こっちから出て行く積極性も必要になりますね。その意味からも、皆さんは今回いい経験をしたと思っます。
皆さんは、このチャレンジフェスタの経験を今後の自分にどう生かしていきまっすか？
菅原 今回は前回と比べて多くの人に来てくれたので、人と人が接するといっ機会をちゃんと得ることができまっした。自分たちがお客さんに対して積極的に接したことなどは、学校や家などでも応用できると思っるので、生活の中で生かしていきたいです。
和賀 自分の意見を少しづつ積極的に言えるようになっってきたので、これからもいろいろなか場で自分の意見を言っていけたらいいなと思っます。
佐藤裕 みんなで頑張るといっこと。



室根山の中腹、目の前にのどかな牧野が広がる素晴らしい環境の中で親しく意見を交わした。浅井市長と高校生の皆さん